

# CASBEE<sup>®</sup>あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタモビリティパーツ(株)新三河拠点	階数	地上2階
建設地	愛知県安城市和泉町八兵衛50-2	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	40人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,100時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年4月 予定	評価の実施日	2026年1月5日
敷地面積	6,278 m <sup>2</sup>	作成者	井谷 隼
建築面積	3,010 m <sup>2</sup>	確認日	2026年1月13日
延床面積	3,285 m <sup>2</sup>	確認者	阪井 久宜



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 76%  
③上記+②以外の 76%  
④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
トヨタモビリティパーツ株式会社新三河拠点

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
												評価点	評価点
<b>Q 建築物の環境品質</b>												2.9	
<b>Q1 室内環境</b>												3.1	
<b>1 音環境</b>												3.0	
1.1 室内騒音レベル		3.0	3.0	0.15								3.0	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40									
1 開口部遮音性能		3.0	3.0	0.60									
2 界壁遮音性能		3.0	3.0	0.40									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
1.3 吸音		3.0	3.0	0.20									
<b>2 温熱環境</b>												3.0	
2.1 室温制御		3.0	3.0	0.35									
1 室温		3.0	3.0	0.50									
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38									
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25									
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38									
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20									
<b>3 光・視環境</b>												3.3	
3.1 屋光利用		3.3	3.0	0.25									
1 屋光率		3.0	3.0	0.30									
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60									
3 屋光利用設備		3.0	3.0	0.40									
3.2 グレア対策		4.0	4.0	0.30									
1 屋光制御		4.0	4.0	1.00	ブラインドおよび庇を設置								
3.3 照度		3.0	3.0	0.15									
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25									
<b>4 空気質環境</b>												3.3	
4.1 発生源対策		4.0	4.0	0.25									
1 化学汚染物質		4.0	4.0	0.50	内部使用の建材F☆☆☆☆取得品を採用								
4.2 換気		2.3	2.3	0.30									
1 換気量		3.0	3.0	0.33									
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33									
3 取り入れ外気への配慮		1.0	1.0	0.33									
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.20									
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	0.50									
2 喫煙の制御		3.0	3.0	0.50									
<b>Q2 サービス性能</b>												3.1	
<b>1 機能性</b>												3.1	
1.1 機能性・使いやすさ		3.1	2.3	0.40									
1 広さ・収納性		3.0	3.0	0.40									
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33									
3 バリアフリー計画	独自	1.0	1.0	0.33									
1.2 心理性・快適性		4.0	4.0	0.30									
1 広さ感・景観 (天井高)		4.0	4.0	0.30	天井高さ2.800								
2 リフレッシュスペース		5.0	5.0	0.33	2階に休憩スペース配置し、自販機を設置								
3 内装計画		3.0	3.0	0.33									
1.3 維持管理		3.5	3.5	0.30									
1 維持管理に配慮した設計		4.0	4.0	0.50	仕上材には防汚性に配慮した素材を採用。開口部の水切り設置								
2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50									
<b>2 耐用性・信頼性</b>												2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振		2.9	3.0	0.31									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	3.0	0.48									
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80									
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	3.1	0.20									
1 躯体材料の耐用年数		3.1	3.0	0.33									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	3.0	3.0	0.23									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	3.0	0.23									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	3.0	0.09									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	3.0	0.08									
6 主要設備機器の更新必要間隔		4.0	4.0	0.15	汚水管、雑排水管にVPを使用								
2.4 信頼性		2.6	2.6	0.19									
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20									
2 給排水・衛生設備		1.0	1.0	0.20									
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20									
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20									
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20									



**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタモビリティパーツ(株)新三河拠点

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:10.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタモビリティパーツ㈱新三河拠点

計画上の配慮事項	
総合	ゆとりのある階高に設定することで、更新性に配慮した計画としています。
Q1 室内環境	内部使用の建材F☆☆☆☆取得品を採用しています。
Q2 サービス性能	2階に休憩スペース配置し、自販機を設置しています。
Q3 室外環境(敷地内)	落ち着いた色彩の外観と建物周囲の緑地帯を確保しています。
LR1 エネルギー	BPI=0.71、BEI=0.66 としています
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を採用しています。
LR3 敷地外環境	駐車スペースを多く確保しています。
その他	